企業との距離を縮め、雇用の充足へ

地域の雇用を守り、企業と求職者をつなぐハローワーク。この9月、企業訪問を軸とした「シン・かこがわプロジェクト」を始めました。「ハローワークってこんなこともするんだな」と知っていただくために、各種サービスへの思いを山本所長に伺いました。



加古川公共職業安定所
所長　山本（やまもと）　実（みのる）さん

地域を盛り上げることが、雇用を生み出す

今年度は全国的なプロジェクトとして、特に新規求人の多い「医療・介護・保育」の3分野に窓口を設置し、支援を行っています。事業所を訪問して直接お話を伺い、充足に向けたサポートの1つとして、面接会や説明会で自社の魅力を直接、求職者に伝えていただいています。産業があって人がいますので、地域を支え、盛り上げていくことが雇用を生み出すことにつながると考えています。

「シン・かこがわプロジェクト」で企業との距離を縮める

従来、ハローワークと企業は近い存在でした。ところが電子化が進み、オンラインでも求人を出せるようになったことで、接点が少なくなったと感じます。もちろん「窓口を利用しないで」ということでは全くありません。従前のように近しい存在として、お気軽にご相談ください。

こうした背景もあり、加古川所では9月から「シン・かこがわプロジェクト」と題して、企業訪問を積極的に行っています。求職者目線で、求人内容のわかりやすい書き方や事業所の強みなどをこちらから提案していきます。文字だけでは伝わらない情報は、動画発信のお手伝いも行いますので、応募のきっかけづくりを一緒に作り上げていきたいと思っています。

「シン」には「真心」・「信頼」・「進む新たに」という思いを込めました。サービスを知って利用していただくことで期待と信頼につなげ、求人数の増加にもつなげていきたいと考えています。

地域に育てられた恩返しとして

私は、この加古川には3度目の着任となります。最初は新卒で採用された20代のとき、2度目は40代のとき、そして今回、役職定年を迎える60代での着任です。節目ごとにこの地域に戻ってくることができ、感慨深いものがあります。はじめは分からないことばかりで、窓口に来られるお客様に教えていただくことも多く、そうして育てていただいたという思いが今も強くあります。

コロナ禍では「雇用調整助成金」を活用された企業もあると思います。こうした助成金も、訪問や窓口での支援の際に「プラスワンの情報」としてお伝えし、事業所から期待と信頼をいただける存在を目指します。

今後も「ハローワークってこんなこともするんだな」と、さらに知っていただけるよう、身近な存在として地域のお役に立ち、雇用を通じて地域の活性化の一助になれたらと思います。